公開実用 昭和54—13634



実用新案登録願

昭和52年6月28日

特许劳長官 殿

考察の名称

2. 東京都中野区沼袋 2 丁目 6 番 2 号 住 所

> 没野 名 武

実用新案登録出願人

東京都豊島区高田3丁目30番3号

株式会社 尚 出

野 搜 氏 代表取締役 名

人 〒171 TEL 03-987-2151 代 理 4.

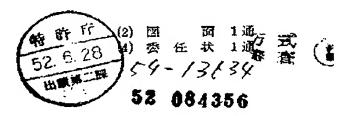
所 東京都豊島区高田 3丁目 3 0番 3号 株式会社尚山堂内

名(6584) 弁理士 内 田

添付書類の目録

付 明 維 許 1通

顯立湖本 1通





明 細 書

1 考案の名称

密封容器

2. 実用新案登録請求の範囲

紙又は合成樹脂製の蓋(4)の内面にゴム・ワックス等の弾性環材(6)を接着させ、これを紙又は合成樹脂製の容器体(1)の口縁(2)の外周に該容器体(1)の外周壁叫よりやゝ外側に向って張出形成した捲込部(3)に被せてなる容器(8)に、半硬質の熱収縮させて容器(8)の頻部を密封してなる密封容器

3 考案の詳細な説明

本考案は紙又は合成樹脂製の密封容器を提案するもので、紙又は合成樹脂製容器は比較的廉価でセリー・ヨーグルト等の半流動体の食品やパターマーガリン等の油脂食品の簡易容器として利用されているが、これらの容器類は密封を開封してしまうと再度密封状態に容器を密封することが困難であった。

公開実用 昭和54—13634

本考案はかかる点に鑑み為されたもので、簡単な手段で確実に密封しうる容器を提案するもので、紙叉は合成樹脂製の蓋の内面にゴム・ワックス等の弾性環材を接着させ、これを紙又は合成樹脂製の容器体の口縁の外周に該容器体の外周監となる容器体のので、簡単なの容器体の内面に対した紙のの容器体の内ので、観光の外間に対した機込部に被せてなる容器に、半硬質の熱収縮させて容器の顧部を密封したとに係る考案である。

以下本考案の実施例を図面に従って説明すると,(1) は厚紙又は薄い硬質合成樹脂製のカップ状容器体で,その口縁②に外側に向ってや・張出形成した機込部(3)を形成してある。 (4) は前記容器体(1) の口縁②を覆う形状となした紙又は薄い硬質合成樹脂製の蓋を示し,第二図に示す如くその内面の印縁②の一部であって,機込部③に嵌て合される部分⑤に弾性を有するゴム等の弾性環材⑥を接着させてある。尚,柔軟質のワックス層で形成しうる。サで環材⑥であっても本考案の目的を達成しうる。(7) は容器体(1) の顕部に援飲された半硬質の熱に

円筒フィルムで(8)は該フィルムの上端部である。前記柔軟質のワックス層を弾性環状(6)とする場合には熱収縮フィルム内閣が熱気で収縮する温度よりも高温性のワックス材を使用することが適切である。(9)は容器で、前記の如く蓋(4)と容器体(1)と熱収縮円筒フィルム(7)により形成される。(9)は容器体(1)の外層壁である。

2字的人

本考案は上記の構成からなるからその内面に弾性環材のを接着させた蓋値を容器体値の上に断め合せ、次いで熱収縮円筒フィルムのを容器的の選部にその上端部値を残置せしめるように援いまったの外周全体に熱気で収縮フィルムのが取り、ムのを加熱気で収縮フィルムの搭込ので収縮フィルムの接蓋値と容器体値をも一体的に強くしめ付けしうるのを発達の頭部の水密気密作用を完全にすることできるのか外気に直接に触れるのを防止できる。という効果を期待しうる。

前期のように、本考案は容器の頭部を置、弾性

公開実用 昭和54—13634

環材,熱収縮円筒フィルムで封緘しているので, 封縅状態を一度でも解けば開封したのを直ちに知 ることができ、又本考案は特に弾性環材を使用し ているので一度開封した容器であっても、蓋を容 器の幾込部に被せ嵌め合せれば、弾性環材が作用 し、密到状態に近い状態を保持し容器内の流出を 防止できるので簡便な密封容器として使用でき、 その便益大なるものを期待しうる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本考案の斜視図で、第2図は本考案 の一部を切欠した縦断面図である。

図 中

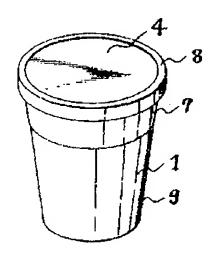
- (1) … 容器体 (3) … 推込部
- (6) … 弾性環材 (7) … 熱収縮フィルム

(8) ... 客器

1 22 20 入

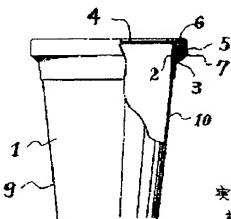
以上

第 1 📑



第 2 國

\$ C



13534

実用新宗登録出験人 - 株式会社 尚山堂